

兵庫県
保険医協会

加古川 高砂支部 ニュース

No. 211
2010年12月5日

兵庫県保険医協会 加古川・高砂支部

(連絡先) 神戸市中央区海岸通一丁目二一三二
神戸フコク生命海岸通ビル五階
電話 〇七八一三九三一八〇一

後期高齢者医療制度は早急に廃止を!

加印社保協が社会保障施策の拡充・改善を求めて二市二町と懇談

加古川・高砂支部が加盟している加印社会保障推進協議会(会長 岡部桂一郎支部長)は、加印地域二市二町と事前に提出した「社会保障施策についての要望書」に基づき懇談を行った。

重点要望項目として、①国民健康保険料について、一般会計より繰り入れを行い払える保険料にすること、②後期高齢者医療制度を即時廃止するよう国へ働きかけること、③こどもの医療費助成制度を拡充すること、④インフルエンザワクチン・ヒブ(細菌性髄膜炎)ワクチン・子宮頸がんワクチンに補助を行うこと、など特に緊急性の高い項目について市町の見解を求めた。

【国民健康保険料】

懇談の中では、①国民健康保険料について、所得200万円モデル(現役世代の父母と子2人家族)で算出した年額の保険料が協会けんぽの約14万6000円に

対して、全国市町村平均で約32万5000円になっていることを示し、払える保険料へ引き下げよう求めたが、当局側は「医療費の増大や本市の厳しい財政状況の中、現状が精一杯であり、これ以上の繰り入れは困難である」(高砂市)、「趣旨は十分理解している。平成22年度で一般会計より8000万円繰り入れを行っているが、これ以上は財政的に困難」

(播磨町)と回答。一方、相次ぐ

国庫負担の削減により、地方自治体の財政状況が疲弊し保険料が高額になっていることについては共通認識となり、各市町とも「国には改善を求めている」とした。

【後期高齢者医療制度】

②の後期高齢者医療制度については、「現政権で同制度の廃止が明記されており、国の動向を見守りたい。市として働きかける予定はない」(加古川市)などと国追隨の姿勢に終始した。

【こどもの医療費助成制度】

また、③のこども医療費助成制度について、兵庫県が第2次新行革プランで5万人あまりを対象外とする素案を発表したことについて、「あくまでも私見ではあるが、新行革プランが実行されると町で独自に実施している助成制度を維持することが困難になる」(播磨町)



加古川市(写真左側が当局)との懇談(10/29)



高砂市(写真右側が当局)との懇談(11/8)

と発言、新行革プランが福祉医療を後退させる方針であることなどを認めるなど一定の前進もみられた。

原田耕作先生

(はらだ こうさく)

1910(明治43)年生まれ。

日本歯科医学専門学校(現・日本歯科大学)を卒業後、高砂市阿弥陀で歯科医院を開業。

78年協会入会。80~85年評議員、

85~95年監事、現在は参与



田村歯科部会長(写真右)が表敬訪問

会員訪問

原田耕作先生(高砂市)が上寿に

大先輩からの激励に感謝

【ワクチン接種】
 ④のワクチン接種については、現在、国で今年度内に子宮頸がん・ヒブ・小児用肺炎球菌の各ワクチンの無料接種(国と市町村で費用を折半)を開始する方針が示され、補正予算案にも関連経費1085億円が計上されており、「実施が決めれば、市としても前向きに取り組んで行きたい」(高砂市)と回答した。

参加者からは「厳しい雇用情勢のもと医療機関にかかれない人が増えている。国保法44条に規定されている窓口一部負担金の減免を使える制度に改善して欲しい」「新しい高齢者医療制度の保険料試算が出されているが、いずれの階層でも保険料の値上げが予定されている。これ以上負担が増えると生活でなくなる。地方自治体からもぜひ国に改善を要望して欲しい」などの声が出された。



播磨町(写真下段が当局)との懇談(11/9)

歯科部会の設立間もないころから部会の発展に貢献されてこられた原田耕作先生(高砂市・協会参与)が、今年9月に上寿・満100歳を迎えられました。

歯科部会への偏見や誤解にもとづく「反協会」色が強かった当時、歯科部会世話人を引き受けられ、地元の歯科医仲間にとつとつと協会の理想を訴え入会を勧めてこられたことは、今も語り草となっています。

10月27日、これまでの協会活動へのご協力に感謝するとともに、上寿のお祝いに高砂市のご自宅をお伺いしました。

今でも天気が良ければ毎日畑仕事に精を出され、隅に建てた小さな家に2匹の猫とお住まいです。三度の食事はもちろん、身の回りのことはほとんど自分でこなすなど「自給自足・悠々自適」を体現されていますが、神戸に嫁いだ

娘さんはさすがに心配して、週に一度ぐらい様子を見にくるとか。長生きの秘訣は? 「そんなものはない。いつも自然や神の恵みに感謝している。強いて言えば畑で体を動かし少しの酒で体を癒すこと。父は40歳で亡くなり、母は『とにかくおまえは長生きせよ』が口癖だった」

また、「協会が強くなると思っただのは、思想の違いを超え、上立つ人間がすべて無欲で見返りを期待せずに果敢に行動を起こして

おられた姿に接したこと」と感激する言葉もいただき、かえってこちらが励まされました。

「歯医者者の習性でしょうな。

今でも天気が良ければ毎日畑仕事に精を出され、隅に建てた小さな家に2匹の猫とお住まいです。三度の食事はもちろん、身の回りのことはほとんど自分でこなすなど「自給自足・悠々自適」を体現されていますが、神戸に嫁いだ